

小6外国語科(中学校教員とコラボ)



中学校での授業をイメージして

小学校の6年生の全ての外国語科の学習において、中学校の英語科の先生に来ていただき、担任と共に授業を行っています。授業の中で、正しい発音を示していただいたり、正しい文法を意識できるような声かけをしていただいたりしています。授業の中で、子供たちは、中学校の先生に英語でインタビューする等、様々なやり取りをしながら楽しくコミュニケーションをとることで、自然に信頼関係を築き、中学校での英語学習に聞きたいことがいっぱい期待を膨らませています。



聞きたいことがいっぱい

期待を膨らませています。

香川大学教育学部 齋藤嘉則教授より

現在、小学校、中学校の英語指導の要諦は校種を超えた連携、協力、コラボです。附属坂出小中ではこのことに日常的に取り組み実践していて、子供たちの学びが着実に進んでいます。小中一貫教育の大きな成果です。さらに、地域のモデルとして地域貢献も果たしています。この貴重な取組が継続され、発展されることが大いに期待されます。



小6外国語科(中学校教員とコラボの効果)

4月より実施してきた表題の効果を探るため12月上旬6年生68名に「中学校の英語の先生と勉強して楽しかったですか」について4件法(はい、どちらかといえばはい、どちらかといえばいいえ、いいえ)と自由記述で尋ねました。

「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的回答率は93%と、とても高かったです。

その理由を自由記述から探ると、子供が感じている価値は、楽しいのはもちろんのこと、①英語の発音や内容に関することがよかった。②中学校の先生の分かりやすく、ていねいな指導がよかった。③担任とのコラボがおもしろかった。④時折、中学校情報を話してくれるのがよかった。等でした。

本調査から、「楽しさ」「教科の内容」「指導方法」「中学情報」の4つの効果が確認されました。今後は、小学校6年生が中学校の英語の授業を参観するなどし、より中学校英語へスムーズに接続できるよう実践していきます。



担任とのコラボも子供に好評

<学園だより～改革と周知～ 63号64号より抜粋>

Q&A 1年間の実践(コラボ授業と小6・中2の合同授業)を振り返って

<小学校教員の振り返りより>

Q1 「中学校英語教員とコラボ授業をして、学んだことは？」

A どんな風にクラスルームイングリッシュを使っているのかがとても参考になった。自分はまだまだぱっと出てこないけれど、伊賀先生が話しているのを見て真似している。単語の練習にしても子供が飽きないように色々な工夫がされていて参考にしたいと思った。ご自身のことを例にしてモデリングする際も、その後に子供が使いやすい文章で作られていて、実際に子供がまねて使えていた。さすがプロだと思えることがたくさんありました。

Q2 「小中連携で感じたことを教えてください。」

A 小学生の振り返り(一部)は以下の通りであった

- 自己紹介をしたり、キーワードゲームをしたりして楽しかったです。授業の始め方も違っていたので、覚えられるか少し不安です。英語で部活動紹介をしてくれて初めて知る単語もあっていい機会になりました。
- 中学生は今までとても大きな存在に思えて話しかけにくかったけれど、英語で質問すると様々なことを答えてくれたり教えてくれたりしてとてもおもしろく分かりやすく楽しかった。
- 附坂中の3年生のお兄さん、お姉さんはとても明るくて優しくてしっかりしていてとてもすごいで思った。もし中学生になって小学生が来たら、今の私のように思ってもらえるように英語を頑張っていきたい。
- 先輩たちはみんな優しく頼もしかった。私も先輩たちのようになりたいと思った。英語もすごくてカッコよかった。中学校に入って英語をするのが楽しみになった。

子供たちの振り返りにもあるように、多くの子供たちは中学生に対してあこがれの気持ちを抱いたようである。中学校3年生との交流で、中学校の最終の姿を小学生が見ることであこがれの気持ちを高め、中学校へ行きたいという思いが高まった子供もいた。小学生にとっての不安なところは小学校との違いという部分であると思うので、今回のような活動の中で少し中学生から話を聞いたり、実際の授業を見たりして知っておくのも不安を取り除く一つになるのかなと思う。

小学生にとって中学校3年生と交流するのは、上に記述したように、最終の姿を見ることであこがれの気持ちが高まること。中学校2年生と交流すると、入学したときの3年と1年という立場でお互いに知っておくことのよさ。中学校1年生と交流すると、1年間経験してきた生の声をすぐに聞けるというよさ。があるような気がする。これは英語だけではないが、6年生と中学生のお互いにとってのよさを考えることは今後も大切だなと思う。今回の中学生との交流は、どちらにもプラスになってよい交流ができたと思う。

中学校の授業を見に行った時の実践では、子供にとっての目的意識を大切にされているように感じた。その部分では小学校と同じ部分も多々あると思う。中学生にとっての目的意識を小学生に～する、小学生の目的を中学生に～するなどとしてどちらにもプラスがあるように設定できると英語での連携は今後もできるだろうと思う。

<中学校英語教員の振り返り>

- Q1 中1の英語の学習にスムーズにつなげるために、小6で取り入れたらよいと思う学習活動、形態を教えてください。
- A 中学校に入ると、書く活動が入りますので、少しでも英語を書くことに慣れておけば良いと思います。「書き写す」だけでもかまいませんので、書く機会を増やすことができればと思います。
- Q2 小6の英語を教えてみて、中1の初期段階の英語の授業で役立つなあと感じたことを教えてください。
- A 中1の初期は、今までと環境が大きく変わりますので、少しでも安心して授業を受けてもらえるよう工夫する必要があります。今回、はじめて小学校の授業に参加させていただき、小学校で毎回歌っている歌や、ゲームを知ることができましたので、それらを中学校でも取り入れ、安心感を感じさせることができればと思います。
- Q3 その他、小中連携で感じたことを教えてください。
- A 中学校英語科教員にとって、小学校英語の学習内容を把握することは、非常に大切なことだと感じていますので、学習内容を知ることができ、良かったと思います。今回、授業に参加させていただき、私が想像していた以上に、児童が多くの英語表現を知っていましたので、中1の段階から、もっと多くの表現を使いながら授業を進めていかなければいけないと感じました。また、英語とは離れますが、春に入学してくる生徒について知ることができたことも、良かったと思います。